



梅花馥郁

— ばいかふくいく —

その14

「品字様」「理義字」などという言葉をご存知だろうか。何やら難しそうだが、誰もが見たことのあるものである。私は、これをタイトルに、一連の短歌作品



を発表したことがある。

晝はやくちに言いふことなかれ詠あらしひて
人に言いふならなほさらのこと

へんな歌であるが、工夫は一首の中に、「言」「詠」「晝」と三つの漢字を使っていることである。同じ字を二つ重ねて使ったもの

を理義字、三つ重ねたものを品字様と言う。早口でしゃべってはいけない。人と言いつ争うときは尚更ゆっくり話すのが大事というほどの意味だが、意味よりも一首の中に同じ字を三通りの使い方に入れて、何とか意味の通るようにした一種の言葉遊びである。

漢字で遊ぶ

ふたりなら言いひあらしひあらしふあらしがもつひとり
来れば姦かしまし女めなるもの

女性には叱られそうな歌であるが、理義字では「姦あらしふ」と読み、品字様になると「姦あらしし」と読むのが何ともおかしい。因みに「男たはか」には理義字がないが、品字様はあつて、こちらは「男たはか男たはか男たはか」と

訓むのだそう。何となく納得できようか。

心には理義字あらずも心うたがふは
心二つにこそあるべきに

こんな歌も作った。二つの心の闘ぎあいこそ疑うでよさそうなのに、心二つの疑うがなくて、三つ重ねて疑うと訓むのは何で

JT生命誌研究館館長・歌人

永田 和宏

だ、というわけである。

私は諸橋徹次らの『廣漢和辞典』を愛用しているが、単に調べただけでなく、遊び心で漢和辞典を涉獵するのも面白い。漢字の奥深さに触れるとともに、新鮮な疑問にも多く突き当たって、興味の尽きることがない。